

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県 日進市

自治体名：愛知県日進市

担当課名：学習政策課

電話番号：0561-73-4169

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	34.91 km ²
人口	93,881 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	2, 867 人
部活動数	58 部活 (うちスポーツ部活動 43 部活)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

国は、全国的少子高齢化が進み、学校部活動の維持が困難となっていることや教職員の負担軽減が急務となっている背景を踏まえ、子どもたちが将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことが出来る機会を確保するため、地域の実情に合わせつつ、早期に学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備を目指すとしている。

本市は、未だ人口増加傾向であり、比較的盛んに部活動も実施されていることから、少子高齢化により部活動の維持が困難になりつつある全国的な流れとはやや傾向が異なる状況である。

生徒、保護者へ向けたアンケートでは、学校での活動を望む声が多く、早急な部活動の廃止は困難であるが、一方で教職員向けのアンケートでは、多くの教職員は経験のない種目の担当や長時間指導など、部活動指導に負担を感じており、地域移行後の指導を希望する教職員は少ない。また、部活動の地域移行については、近接する自治体間でも手法や導入時期が異なっているため、教職員にも不公平感が生まれている。先進自治体を参考に、子ども、保護者、教職員、地域の指導者にとって、負担が少なく持続可能な手法を検討している。

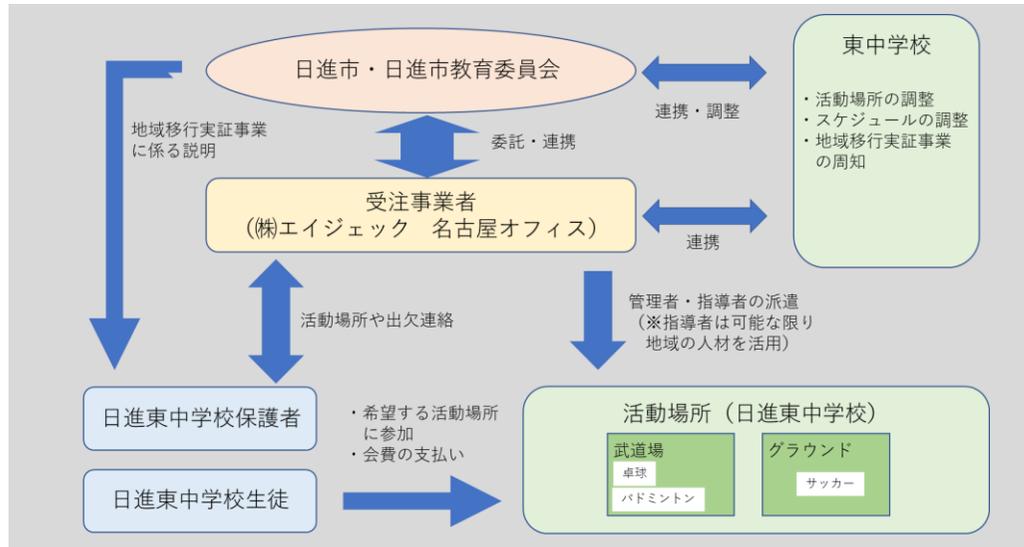
市内中学校に係る推計

		実績値		推計値					
学校名		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
中 学 校	日進中学校	763	726	657	645	656	666	685	664
	日進西中学校	871	891	925	946	954	1,015	1,021	1,046
	日進東中学校	648	706	814	834	800	810	781	769
	日進北中学校	502	524	526	498	481	479	466	451
全体		2,784	2,847	2,922	2,923	2,891	2,970	2,953	2,930

運営体制・役割

年間の事業スケジュール

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



- 令和6年7月 第1回検討委員会の開催
- 令和6年9月～12月 地域クラブ活動実証事業
- 令和6年11月～ 市内団体の活動紹介
- 令和6年11月 保護者アンケート
- 令和6年12月 第2回検討委員会の開催
- 令和7年3月 第3回検討委員会の開催

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学習政策課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・学び支援課…市民の地域スポーツ講座、イベント
- ・学校教育課…部活動に関すること、教職員の兼職兼業

◎首長部局

- ・財務政策課…予算措置、ふるさと納税の検討
- ・子育て支援課…小学校放課後子ども教室での活動内容の充実

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
日進東中地域移行クラブ	民間事業者	①卓球 ②サッカー ③バドミントン (新)	全18回 ①8回 ②9回 ③1回	・午前9時～正午 ・午後2時～4時	①53人 ②109人 ③2人 (1～2年生)	令和6年 9月～12月	日進東中学校	11人	2人	①100円/回 ②100円/回 ③100円/回	①部活動 ②部活動 ③なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

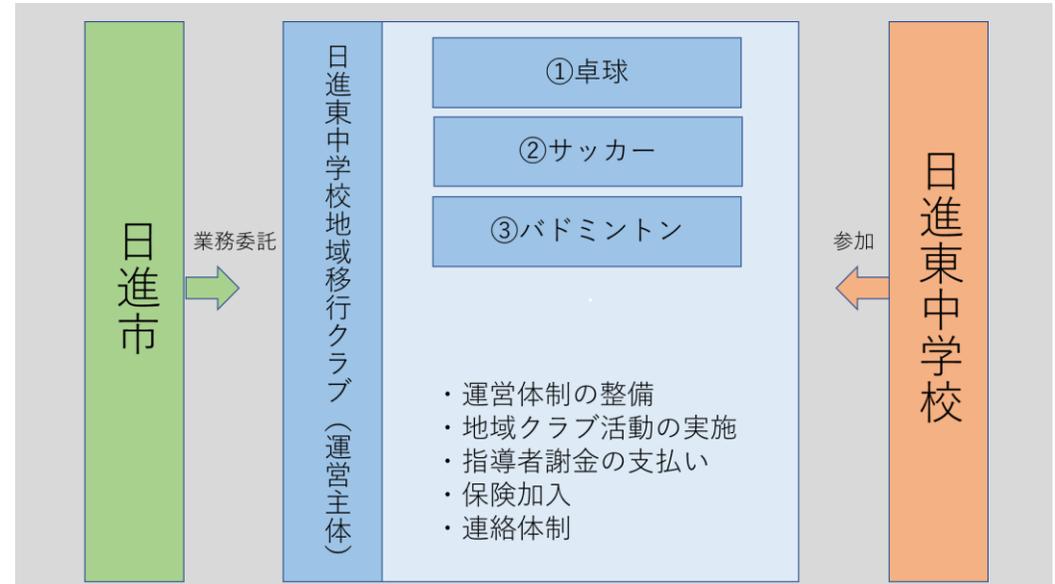
- 特になし

主な取組例

●日進東中地域移行クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	①卓球 ②サッカー ③バドミントン (新)
運営団体名	エイジック名古屋オフィス
期間と日数	①卓球：全8回 9月8日～12月8日 ②サッカー：全9回 9月8日～12月15日 ③バドミントン (新)：全1回 10月20日
指導者の主な属性	①外部指導者 (大学生) ②外部指導者 (大学生) ③外部指導者 (大学生)
活動場所	①武道場②グラウンド③武道場
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等 (年額)	①卓球 100円②サッカー 100円 ③バドミントン (新) 100円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒・指導者一式：57,500円/年

●運営体制図 (地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、市、学校、保護者、指導者との連携を行う

●主任指導者 3名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者 8名

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

● 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

○参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡

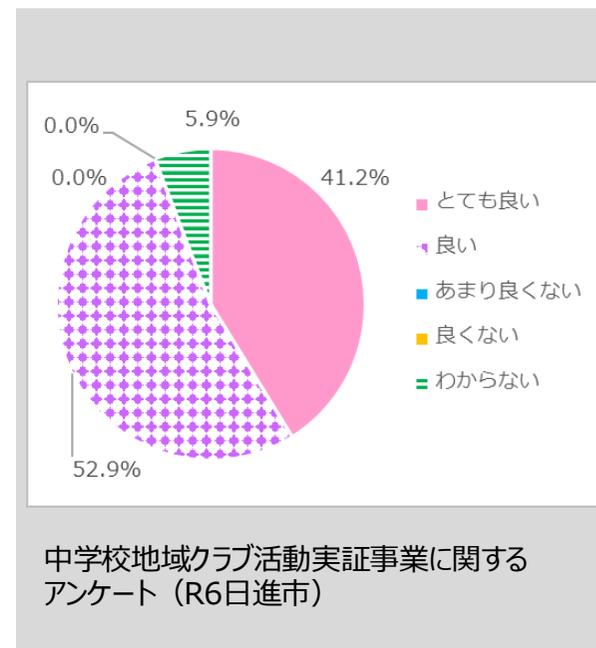
取組の成果

○統括コーディネーターを配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○日進東中学校の保護者を対象としたアンケートの結果、参加したとの回答者のうち94.1%が「とても良い」「良い」と回答した。

○回答者のうち、75.4%は実証事業に参加していない。「他の習い事をしている」「魅力的なプログラムが無かった」ことなどが理由としてあがっていた。

○新しい種目として「バドミントン」を実施したが、参加者があまり集まらなかった。多くの生徒が既存の部活動に参加しているため、新しい種目を実施しても子ども達は集まらないことが分かった。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【統括コーディネーター】

- ・中学校、関係団体、受託事業者に課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・関係者との調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- ・学校、受託事業者、関係団体への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- 地域の資源を活用し、持続可能な地域クラブの運営体制を構築する必要がある。
- 公的支援の対象とする地域クラブの基準が無いいため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 人材バンクは設置していない。今後、愛知県が設置した人材バンクを活用するなどして、指導者の確保に努める。
- 市内のスポーツ協会、文化協会、大学などと連携し、地域の指導者を確保した。
- 実証事業の指導者に対して、資質向上のための研修を実施した。

人材バンクの人数

－名

人材バンクの年齢構成

10代	－名
20代	－名
30代	－名
40代	－名
50代	－名
60代以上	－名

登録者属性

人材バンク未設置

種目

人材バンク未設置

資格有無

人材バンク未設置

取組の成果

- ・指導者を11名確保した。
- ・市内大学の学生や市内在住の大学生に指導を協力してもらった。

日進東中地域クラブ実証事業に係る指導者の内訳
市内大学生 4名

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者研修】

- ・対象：日進市放課後活動及び中学校地域クラブ活動実証事業の指導者
- ・目的：部活動に関する今日的課題やその解決方法について学び、地域クラブ活動の適切な運営の在り方について理解を深め、指導者として資質を高める。

工夫した点：「生徒への対応」「緊急時の対応」「要配慮児童への対応」などについてテキストを作成し、対象者へ配布した。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：8月14日、24日
- ・開催回数：4回
- ・参加人数：32人（文化系含む）

受講者の声

- ・避難経路について各学校で異なるので確認してほしい。
- ・災害時の引き渡し、避難場所について教えて欲しい。
- ・緊急時の連絡体制を整えて欲しい。
- ・特別な配慮が必要な子どもについては、事前に教えて欲しい。
- ・既存部活動がある種目については、練習メニューを教えて欲しい。

今後の課題と対応方針

- 実証事業に参加する地域クラブで指導する者は、本研修を必須とした。本格的に地域クラブ活動に移行した際の、研修内容や頻度について検討する必要がある。
- 今回は指導者の資格要件を設けていないが、資格要件を設けると、指導者の確保が困難になることが想定される。どの水準まで質を求めるかについては、検討する必要がある。
- 平日と休日の指導者間の効率的・効果的な連携方策について検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 市内大学の学生へ指導を依頼した。
- スポーツ協会や文化協会へ指導者の派遣を依頼した。

取組の成果

- 中学校校長会で進捗状況の周知を行うことで、本市の部活動地域移行の進捗状況について情報共有を行うことができた。また、実施校での状況や課題を共有することで、今後の取組に対する理解を得られることができた。
- 受託事業者が当日の運営補助を行った。
- 指導者が競技種目の指導のみに集中できるよう、開錠の施錠、開錠や参加者の出欠確認などを行う運営補助員の配置を必須とした。

バス等の運行実績

バスの運行は未実施

バス等の運航経費・収入

バスの運行は未実施

今後の課題と対応方針

○多くの種目を地域クラブへ移行するためには、地域の団体、総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、さらなる連携強化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○統括コーディネーターが、隣接自治体との情報交換・共有を重ね、進捗状況の把握に努めた。

各自治体の役割

・各市の教育委員会が独自に取り組んでいるが、コーディネーターが情報交換を行い、部活動の地域移行の時期について、調整を図っている。

取組の成果

○先進自治体を除き、近隣自治体である程度足並みを揃えて地域移行が進んでいる。

今後の課題と対応方針

○先行する自治体と遅れている自治体で「部活動の顧問をしなくても良い」、「地域クラブの指導者として時給換算で報酬が出る」などの格差が生じている。

○近隣自治体である程度足並みを揃えた地域移行が求められる。

近隣自治体（※中学校部活動の検討状況）

	実績		予定	
	R5	R6	R7	R8
瀬戸市	・関係者による検討	・部活動指導員の一部導入 ・アンケート実施（児童生徒）	・活動時間の市内統一 ・検討委員会の設置	・検討中
尾張旭市	・検討委員会の設置 ・部活動指導員の導入	・今後の方針・方向性を検討 ・民間事業者による実証実験を実施	・体制・制度を検討 ・民間事業者による実証実験を実施	・休日部活動の地域連携開始（R8.4～）
長久手市	・検討委員会の設置（R4） ・アンケート実施（児童生徒・保護者・教職員）	・生徒・保護者説明会実施 ・民間事業者による休日地域クラブの実施（業務委託）（R6.9～） ・アンケート実施（児童生徒・保護者・教職員）	・休日の地域移行の課題を検証	・平日部活動の地域移行に関する検討
豊明市	・検討委員会の設置 ・アンケート実施（生徒・教職員） ・モデル事業の実施	・運営団体の募集 ・モデル事業の拡大（課題の整理・改善） ・大会出場に向けて調整	・運営団体の募集 ・モデル事業の課題の整理・改善 ・大会出場に向けて調整	・民間事業者による休日地域クラブの実施（業務委託）（R8.9～）
東郷町	・関係者による検討 ・アンケート実施（生徒・保護者）	・検討委員会の設置 ・今後の方針・方向性を検討	・体制・制度を検討	・民間事業者による休日地域クラブの実施（業務委託）（R8.9～）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

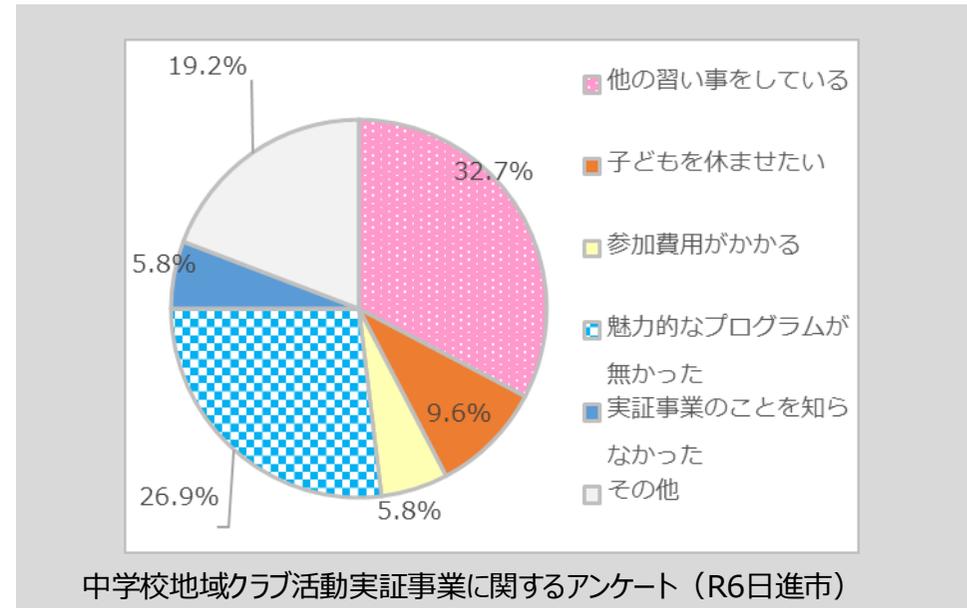


取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- 日進東中学校の1・2年生の保護者向けに行ったアンケートの結果、69件の回答があった。
- 今回の実証事業への参加者は24.6%であった。
- 参加費用については、94.2%が「丁度よい」「安い」と回答している。支払い方法については、毎回の支払いではなく、月単位での支払いを希望する声があった。
- 参加していない理由について「他の習い事をしている」との回答が32.7%であった。
- 部活動が盛んに行われている学校であり、部活と並行しての地域クラブ活動は参加することが難しいとの声があった。



今後の課題と対応方針

- 部活動を継続したまま地域クラブ活動を実施しても、生徒は習い事や部活で忙しいためあまり参加できない。部活動の回数の縮減と地域移行クラブ活動への移行は同時に進める必要がある。
- 実証事業のため、参加者が少なくても実施したが、実際に運営するとなればあい、最少催行人数を決めておくか、月払い制にしておかないと、安定的な運営は難しい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組み作りを行う必要があるが、実証事業については、多くの生徒に参加してもらうため受益者負担金を安価に設定した。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・システム（構築・保守・運用）費用（75千円）
- ・備品費用（96千円）

■ランニングコストの分析

- ・講師料（213千円）
- ・管理者費用（140千円）
- ・保険料（38千円）
- ・その他諸経費（136千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- ・種目によって異なるが、合算すると全18回の活動に対して、約697千円の事業費が必要となっている。1回当たり約39千円である。
- ・本実証事業の参加者数は延べ164名であり、1回当たりの平均は9.1人である。全額を受益者負担金で賄うと考えると、一人1回当たり約4千円を負担してもらう必要がある。
- ・高額な理由として、「参加者数が少なかったこと」、「民間事業者による管理者費用が高額であること」が考えられる。

収支バランス

今回の実証事業で受益者負担金としての徴収額は、16,600円である。市費負担は約680千円となっている。収支バランスは悪く、市費負担が大きいため、全校で通年事業を実施することを考えると、持続可能性は低いと考えられる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

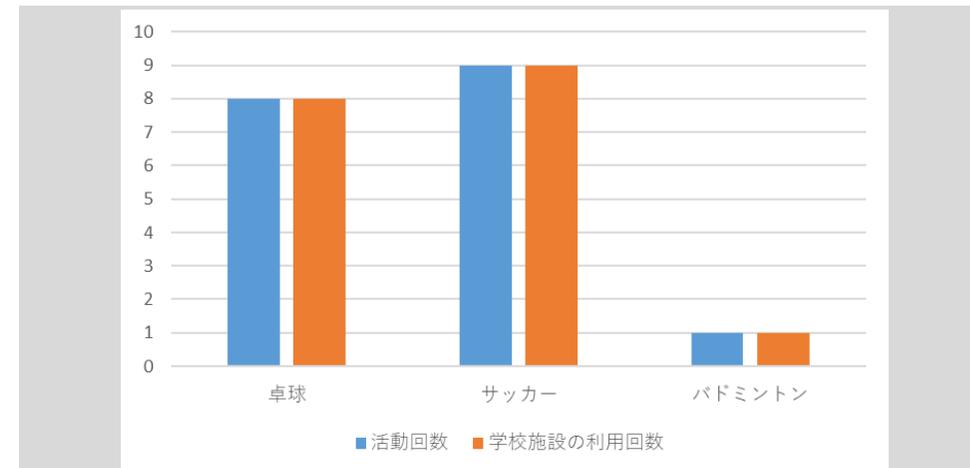
取組事項

○保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行った。

○拠点中学校を運営主体と訪問し、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

○運営主体と拠点中学校を訪問し、理解を高めることで、運営主体と学校の繋がりを深め、全18回の活動の全てにおいて、学校施設を利用した活動となった。



今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に部活動が実施されており、参加者が集まらなかった。また、顧問との調整により実証事業の活動日を決定したが、午前部活動、午後実証事業となる日もあり、保護者から参加しにくいとの意見があっ

た。学校との調整を行い、事業趣旨等の理解等を求める必要がある。

○校舎のセキュリティの問題があり、休日の特別教室の利用に学校の理解が得られにくいため、施設環境整備を行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 保護者の指導への協力意向調査、既存の自主練習の把握

取組事項

指導者や活動できる場を確保するため、中学生向け部活動に関するアンケート調査の項目として、「保護者の指導への協力意向調査」及び「既存の自主練習の把握を行った。

取組の成果

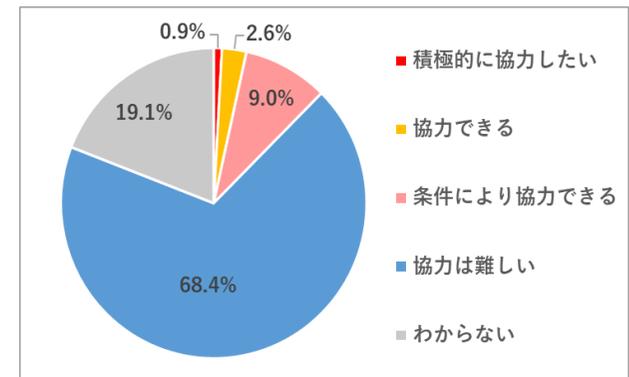
アンケート結果から、12.5%の保護者が、時間帯や報酬等の条件によっては、子どもの指導に協力して良いとの回答があった。今後、4中学校で様々な種目を実施するためには、地域の団体だけでなく、個人へも協力をお願いし、指導者の発掘・育成を図る必要がある。

また、既に部活動を補完する活動（外部練）が一定数実施されている。現在実施中の活動を整理し、状況把握や体制整備を行うことで、地域移行を担う団体となる可能性がある。

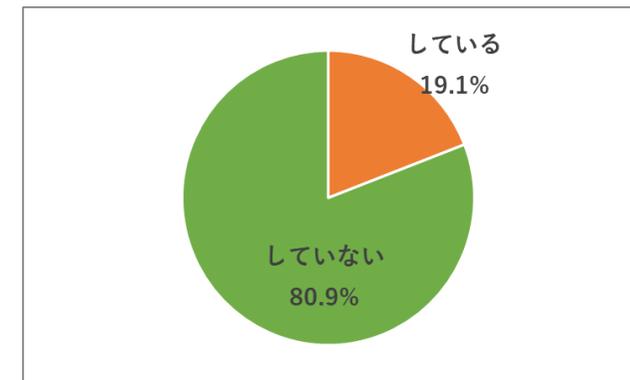
今後の課題と対応方針

- 指導者の確保は大きな課題である。保護者の協力が得られるような条件設定について検討する必要がある。
- 活動場所として、校舎を利用することができるよう、施設環境を整備する必要がある。

Q：教職員の業務負担軽減が求められていますが、教職員が指導する部活動に代わる地域クラブの指導者を募集した場合、指導に協力することは可能ですか。



Q：現在、子どもたちの部活動を補完する活動（※部活外の複数人による自主練習（いわゆる「外部練」））を有志で継続して実施されていますか。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

参加者の94.1%が「とても良い」「良い」と回答しており、「専門的な指導」や「体験機会の充実」を理由として挙げていた。本市で初めての学校施設を利用した実証事業であったが、学校との調整など地域移行するにあたり必要な経験が得られ、一定の成果があった。

一方で、参加者数が非常に少なく、少人数での開催を行った種目があった。現在は部活動が盛んに行われており、また、部活動以外にも習い事をしているなど、子どもたちが忙しいことが理由だと考えられる。地域移行を行う際には、同時に部活動回数を縮減する必要がある。

今回、部活動には無い新たな活動として、「バドミントン」を実施したが、参加者数が非常に少なかった。一方で既存の部活動がある「卓球」「サッカー」は多くの参加者があった。持続可能な地域移行を進めていく上では、受益者負担とのバランスが重要であるため、人数が集まりにくい新たな活動ではなく、既存部活動を補完する活動を行っていくことが合理的だと考えられる。

●成果の評価

- 「専門的な指導の充実」や「体験機会の充実」など、参加した子どもたちは普段の部活動には無い指導を受けることが出来た。
- 実証事業の参加費用を安価に設定としたため、「丁度良い」「安い」との回答が94.2%であった。
- 学校施設の使用や活動種目について、学校との調整を行った。セキュリティの問題や、施設利用の重複など様々な課題を把握することが出来た。

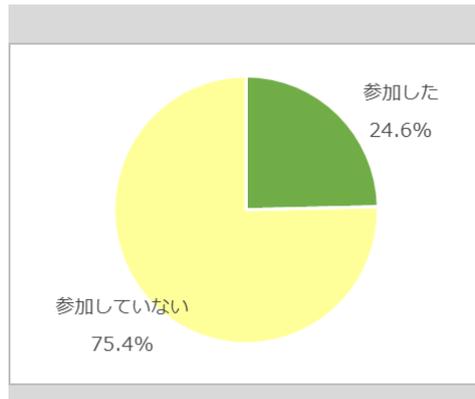
●今後に向けて

- 地域移行と同時並行での部活動の縮減。
- 指導できる個人・団体の募集。
- 指導者の質を確保するための研修内容の検討。
- 部活動顧問との指導内容の調整。
- 部活動顧問の兼職兼業の在り方の検討。近隣自治体との待遇格差の是正。
- 学校の有効スペースの把握

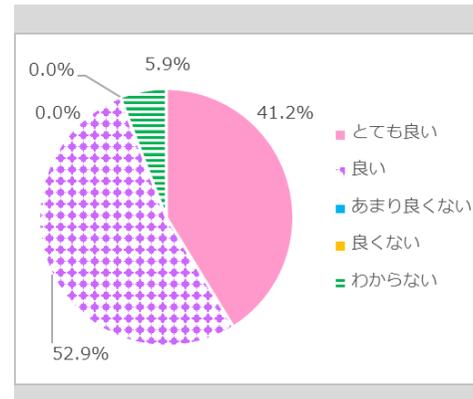
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

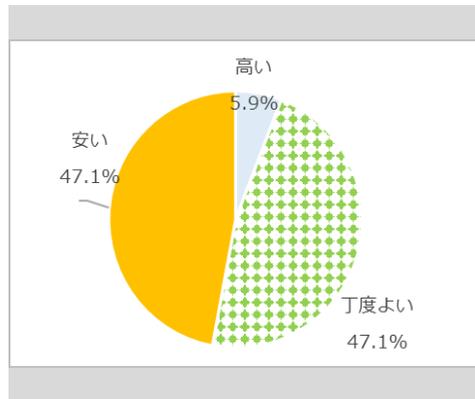
Q.今回の実証事業に参加しましたか？



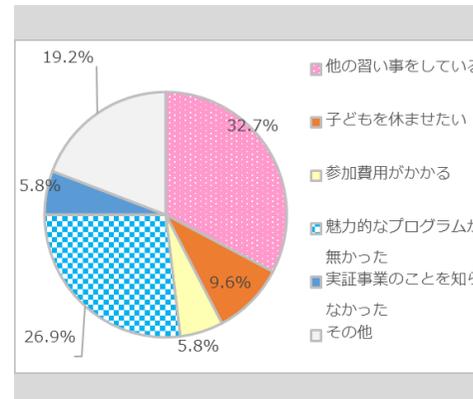
Q.今回の実証事業についてどう思いましたか？



Q.実証事業の参加費用についてどう思いましたか？



Q.何故、実証事業に参加しなかったのか教えてください



●参加者の声

参加者

大会前の練習としてとてもありがたかった。こういう機会をもっとつくてほしい。

参加者

将来はプログラマーになりたい。みんなでやるのは楽しかった。

保護者

子どもの興味のある活動に参加できて、とても良かったです。

保護者

学校の部活と併用でき、いつもの慣れた場所で練習できるのが良かった。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【卓球】



【卓球】



【サッカー】



【バドミントン】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、総合型スポーツクラブ、競技団体、保護者
市長部局、市教委、総括コーディネーター

●経過

令和5年度から検討委員会を設置し、部活動地域移行について検討を開始した。令和5年度は小学校部活動の方針について検討し、令和6年度は中学校部活動の方針について検討した。また、令和6年度は学校を活動場所とした実証事業を実施し、地域移行に向けての課題を把握した。

●経過

9月から12月にかけて市内中学校1校において、休日地域クラブ活動の実証事業を行った。地域クラブ活動はスポーツ系3種目18回実施した。このうち1種目は既存の部活動に無い新たな種目を実施し、2種目は既存の部活動にある種目を実施した。

●実施にあたって生じた課題

スポーツ系活動においては、グラウンドや武道場などを利用して実施するため、セキュリティの問題はほぼ無かったが、他部活動と利用時間帯が重複してしまうことがあったため、学校側との入念な調整が必要である。

また、種目によっては、参加者が集まらず、受益者負担とのバランスが取れていない。盛んに行われている部活動の縮減と地域クラブ活動の実施を同時並行で進めていく必要がある。また、持続可能な地域移行を進めるためには、地域の指導者や活動団体へ指導を依頼し、受益者負担とのバランスをとりながら進めていく必要がある。

●今後の展開

令和7年度は、全ての中学校において実証事業を実施し、学校・保護者の地域移行の理解を高めていく。指導者の募集を進め、地域移行の準備のできた部活動から、順次、休日部活動の地域移行を進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	目指す姿
県	連絡協議会の開催（年2回）				<p>○地域資源を活用し、継続して子どもたちの活動機会を確保</p> <p>○これまでの部活動に無かった種目も増やし、子どもの選択肢を広げる</p> <p>○やる気のある教員は指導が継続できる環境づくり</p>
市	部活動地域移行検討委員会の設置及び会議の開催（年3回）				
	実証事業の実施				
	地域人材・クラブ団体の掘り起こし				
	地域活動団体の紹介				
	学校施設の空きスペースの有効利用を検討				
	兼職兼業ガイドラインの策定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・休日部活動の回数縮減 ・地域移行を目指す。 </div>				
	学校施設開放にあたっての環境整備（セキュリティ対策）				
	子ども向け講座、イベント情報の発信強化				
関係課によるプロジェクトチームの設置・連携強化					
学校			教師の兼職兼業の希望把握	兼職兼業申請	
クラブ団体	市から実証事業の業務委託				
	地域人材（指導者）の募集・採用				
	受益者負担による自主運営 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 学校施設を活用した団体活動 </div>				